

7. 旅程 スタークリッパー東南アジアクルーズ乗船記

(セイラーが一度は乗ってみたい帆船) 第2回(続編) 写真・文 吉田 瑞樹

日付	行き先	上陸方法	上陸後の観光他
1月12日(土)	タイ・プーケット島への湾乗船		テンダー乗船
1月13日(日)	タイ・スリン島	ウェット・ランディング	ジャングル・トレッキング
1月14日(月)	タイ・スリン島	ウェット・ランディング	ビーチロック登り
1月15日(火)	タイ・ロックック島	ウェット・ランディング	シュノーケリング
1月16日(水)	マレーシア・ランカウイ島	桟橋上陸	ジャングル・トレッキング(有料オプション)
1月17日(木)	タイ・クラナ島	ウェット・ランディング	メルト洞窟(無料オプション)
1月18日(金)	フォテンター、タフ島&ハニー島	桟橋上陸	フォテンター(無料)、島内散策(有料オプション)
1月19日(土)	タイ・プーケット島への湾下船		テンダー下船



ウェットランディングのビーチ(テンダー乗船時)



ヴァンゲリスの曲と共に出航する

かる!

1日目: 1月12日(土) プーケット島ホテルでプリー・チェックイン後、スタークリッパー乗船

快晴。16:00からテンダーで乗船し、パスポート提出とクレジットカード登録し、キャビンのキーを受け取りチェックイン終了。19:00から避難訓練。私のグループの返事は、”Yes!”で、別のグループの返事は”Here!”だ。避難訓練は英語とドイツ語で行われ長めだ。19:30から夕食。日本人グループはそれぞれ自己紹介。テーブルのすぐ後ろでタイの伝統音楽演奏。22:00にヴァンゲリス作曲の出航テーマ音楽(コンクエスト・オブ・パラダイス)が流れ、アンカーが抜かれ、セイルが順次張られ、出航。次々にセイルがあがるのを見ると、わくわくする。後日、筆者の世代は「ロシア民謡のボルガの舟歌を思い出しますね」と話した。なんだか少しもの悲しい曲の雰囲気、ボルガの舟歌の「エイコーラ!エイコーラ!もう一つエイコーラ!」と奴隷たちがロープで船を引く情景に聞こえる。だが、セイラー達が「エイコーラ!」とロープを力いっぱい引くこともなくセイルはスルスルとあがった。毎日出航時にこの曲がか

2日目: 1月13日(日) スリン島〜「死」のジャングル・トレッキングから生還!

快晴。プーケット〜スリン島は、110ノータカマイル(=約204km)。午前のスタッフ紹介時に、キャプテンのメッセージは、「①バケーションを楽しんで、②政治の話はなし、③宗教の話もなし」。クルーズディレクターからは、「スタークリッパーでは、ラスベガスタイプのエンターテインメントショーが無い代わりに、デッキでセイリングを楽しんで欲しい、朝日や夕日も楽しんで!」であった。(昼頃の)スリン島上陸に向け、帆走が続く。わずか1〜2ノットだ。筆者は、他の3人の日本人同乗者とジャングル・トレッキング挑戦。片道2km、45分程度の前情報である。ところが、海岸線沿いのトレッキング¹は

¹ タイ・スリン島のジャングルトレッキングについては、旅行サイトに写真と記事を投稿したので楽園のような美しいビーチを見ていただければ幸いです。投稿先: LINEトラベルエージェント: <https://www.travel.co.jp/guide/article/36953/>

記事には「健脚向き」と書いた。筆者のようなシニアには妙なコースである。同年代の英国人たちもバテていた。



スリン島上陸地点の楽園風景



セイルロック頂上から見たシミラン島ビーチ

とてもタフだった。A氏はすぐに靴が壊れて中止。残り3名の内、1本早いテンダーで先行上陸したI氏は最終地点まで到達できず引き返して来た。疲労困憊の様子。筆者も似たような状態。思いのほかアップダウンがきつい。それでもなんとか折り返し、帰路は写真も撮らずビーチまで“生還”。若いHさん(女性)は、大した負荷でもない様子で驚きだ。“老人”2名が“死にかけた”ジャングル・トレッキングは、その後、あらゆる場所でジョークのネタになった。25年のスタークリッパーの歴史で、乗客を残して出航したのは、わずかに2回だそうだ。その3回目になり、スタークリッパーの歴史に名前を刻み損ねた。22:00からのファッションショーに、日本人テーブルからHさん参加した。参加するとスループ・ショップの買い物が2割引きになる。ショップの販促イベントだ。乗客の参加は129名の全乗客中1名のみ!あとの5名の出演者は、全員スタークリッパー乗員。

3日目:1月14日(月)シミラン島～中国人”invasion”のワケ

快晴。スリン島～シミラン島は、52ノータカマイル(=約96km)。朝のエクササイズは昨日、6～7人だったが、夜のファッションショーにスポーツチーム3人が参加したこともあり、一気に2倍の12人に増えた。午前中に”invasion”と言われるほど中国人が押しかけているシミラン島へ上陸し、シュノ



シミラン島上陸地点から見たセイルロック

ーケルを少しやってランチに本船に戻る予定だ。「ビーチでシュノーケルしたら魚がいっぱいいて、サファリに行かなくても魚はみられるらしいよ」との情報を得ていた。ところが上陸したら巨岩のSail Rockがあまりに素晴らしく、これに登ることにしてシュノーケリングは後にすることにした。10分ほどで登れる。中国人の”invasion”が続く。周りは90%以上中国人。魚と中国人とどちらが多いか、という話がでたが、「魚より中国人が多いに決まっている。多分3,000人以上だろう。時には、8,000人も上陸する。モーターボートは何千隻も来るのだ」とスポーツチームのインド人のコメント。Sail Rockの奇観、透明度の高い海、ビーチ裏のテーブルやシャワーや売店もある休憩スペースの収容力が”invasion”の背景らしい。あまりの中国人の数にシュノーケルはせずに船に戻ると、ピアノバーにぶら下がるプールは、中にある“生物”を観察できる「人間水族館」になっていた。午後遅くから半月が出ている。セイルが上がるまでデッキ前方は立ち入り禁止のロープが張ら



ピアノバーにメインデッキからぶら下がるプール時折「人間水族館」になる

れるが、セイルが上がるとロープは外され自由に前方に行ける。夕方、ホテル・マネージャーのアニータさんにインタビューした。概要は第3回でご紹介。

4日目：1月15日（火） マスト登りとロックノック島「楽園の基地」

昨夜は大雨だったが快晴に。シミラン島～ロックノック島は 111 ノーティカルマイル（＝約 206km）。マストのぼりを予定しているの、直前のエクササ



まだ“くも男”だった筆者～まるで空に向かい登る

イズを躊躇した。エクササイズで疲れてマスト登りで足がもつれないか・・・と。K夫妻、Hさん、筆者、I氏、A氏の順で日本人テーブルは全員登る。筆者より若いのはHさんのみ。K夫妻はスタークリッパー船のリピーターで、何度も登っているベテラン。



シェードを張ると“天国”に、沖にスタークリッパー

にシェードを借りて来た。いい風が出てきたら、デインギ（レーザー）も考えている。日本人テーブルの面々が次々上陸してきて、カヤックやスタンディングパドルなどで遊んでいる。70歳前後の人達である。シェードを固定すると、“楽園”状態。本船にもどり、日本人テーブル全員



六分儀の使用方を説明するチーフオフィサー・ドミニク氏

10mほどの高さの見張り台まで登る。ハーネスベルトを掛けるフックが5個あり、スタッフ1名が最初に登り、4名が続く。ロープはしごの途中で長時間滞留すると下の景色が視界に入り怖くなる。

ロックノック島沖合で投錨、テンダーでビーチに上陸。シュノーケルすることにし、休憩用の“陣地”

で、アニータさんのご主人で一等航海士のドミニク氏のブリッジ案内に参加。四重、五重にバックアップが組んだシステムで、特にブリッジ要員は、12分に1回、システムに確認を入れる。つまり、心筋梗塞などの突然死などの早期発見や、担当中は12分を越えた“居眠り”もできないのである。

で、アニータさんのご主人で一等航海士のドミニク氏のブリッジ案内に参加。四重、五重にバックアップが組んだシステムで、特にブリッジ要員は、12分に1回、システムに確認を入れる。つまり、心筋梗塞などの突然死などの早期発見や、担当中は12分を越えた“居眠り”もできないのである。

5日目：1月16日（水） ランカウイ島～又もジャングルトレッキング参加！

快晴。ロックノック島～ランカウイ島は 85 ノーティカルマイル（＝約 158km）。スリン島で“死にかけた”I氏と筆者は懲りずに今度は4時間のジャングル・トレッキングに再挑戦。日よけ、虫よけで長ズボンと長袖に着替えた。ランカウイ島は、プーケット島に負けない観光開発が進む。桟橋着岸なので、観光タクシーなどが列をなしており、さまざまに観光ができる。ジャングル・トレッキングはネイチャー・ツアーだ。リゾートホテル内の保護林（熱帯雨林）を動物観察して歩く。サルやモモンガの仲間を間近で見た。今回も、無事“生還”した。17:00からアニータさんの担当部署の話、“Behind the scenes of the Hotel dept.”を聞いたら、乗客の為にホテル部が奮闘しているのがよく理解できた。大概のクルーズ船は、M/S Costa Fortunaのように、M/S=Motor Shipが付く。スタークリッパーの場合は、SPV Star Clipperである。日本人テーブルでは、“SPVは何の略か？”が話題となっていた。“SはSailingだろう”、は一致していた。“VはVesselだろう”も一致した見方だ。Pが疑問だったが、“Passengerだ”とアニータさんに教えてもらい、“そりゃそうだね”、ということで収まった。



黒いサルは“超カワイ”

6日目：1月17日（木）クラダン島とエメラルド洞窟

6日目：1月17日（木）クラダン島とエメラルド洞窟

快晴。ランカウイ島～クラダン島は 65 ノーティカルマイル（＝約 120km）。“エメラルド洞窟”は申し込めば無料参加可能。クラダン島でシュノーケリング後、参加を考えた。ところが、足ヒレのゴムが片足分切れたので、素足で1回だけ潜り、シュノーケリングは中止。丁度、ゾディアック



ここも楽園のクラダン島



クラダン島ビーチバーベキュー風景

クで日本人メンバーが到着したので、確認したら、“エメラルド洞窟”ツアーは空きがあった。ビーチでのバーベキューランチ後参加した。洞窟ツアーは、暗い洞窟内を（ライフジャケットを

付けて）120m泳ぐ。“コウモリとヘビが苦手な人はご遠慮ください”というツアーだ。ヘビとはもちろんウミヘビである。但し、コウモリもヘビも毒はない由。普段スイミングしない人には、120mは結構な距離だ。ゾディアック2隻分の人数（20名程度）が一緒になると、ワイワイと声を掛け合うので何とか泳げた。トンネル内でヌルっとしたものを感じる。ヘビかどうか不明だ。木の葉っぱかも。トンネルを抜けると、驚きの絶景。防水バックをもっていないので、カメラが無く、写真もない。これから参加する方は、防水バックを入手され、スマホやカメラを持参することをおススメしたい。夕方機関長の“エンジンルーム紹介”に参加。エンジン系統は、二重、三重のバックアップ体制だ。騒音と暑いのは、いつも大変だと思う。4時間交替制だそうである。6日目のこの日22:00から“タレントショー”があった。なんと、I氏が“参加する”と言った。そこで、成り行きでI氏の演目と紹介文を筆者が作ることになっ

I cannot do this sober! Ladies and gentlemen!

Now, Japan Team will introduce a Japanese culture with a very authentic Noh-play, Japanese traditional dance and chanting, called Takasago, which is mostly played at the happy occasion such as wedding ceremony.

This Noh-play is based on a story that a pine tree of Kobe and a pine tree of Osaka were husband and wife. A man is starting from Kobe to Osaka across the sea by a small boat, raising its sails high like Star Clipper in order to convey Kobe tree's hello to the other.

Now, let me introduce Pavarotti of Japan, he is giving the biggest surprise after Suzan Boyle, Mr. I～～.

た。能の“高砂”を1分で演ずるというのだ。詳しく知らなかったストーリー概要を教えてください、文章を作った。本当は筆者が読みあげなければならなかった。それで最初の文章は“シラフではとてもできません！”と書いている。筆者は早寝早起きで、「ニワトリを起こしてから1日を始める」生活なので、22:00は“深夜”で起きていられない。そこでHさんに読み上げを頼んで先に休ませてもらった。“しらふ”で読んだに違いないHさんには、この場を借りて再度感謝を伝えたい。I氏はその稀有なタレント性で、外国人乗客の中でアイドルになっていたの、それを汲み上げた紹介文にした。最後は、“日本のパバロッチェ！スーザン・ボイル以来の衝撃！”だ。ウケたそうである。私も見たかった。ニワトリより早起きの筆者は、クルーズ船でも本船でも22:00以後のイベントは殆ど参加しない。この部分は参加して確認していただきたい。

7日目:1月18日(木) フォト・テンドー²とJames Bond 島&パンイー島ツアー

快晴。クラダン島～パンガー湾～ホン島は、67ノティカルマイル(=約124km)。午前中のフォト・テンドーに日本人3人がくじ引きで幸運にも20名のゾディアックの枠内に、K夫妻はテンドーで参加。くじの権利といってもライフジャケットを受け取り



フォトテンドー中のスタークリッパー



フォトジェニックなシーンを作り出すゾディアック

² ゾディアックやテンドーからスタークリッパーを撮影するイベント

着るだけだ。フォト・テンダー中に驚いたことがあった。航海クラブに入れていただいた際の自己紹介で、ナローボートの話を書いた。I氏がこのナローボートの日本での紹介活動のお手伝いをしたことがある由で、アンディ氏と敦子さん夫妻を知っていたのである。

スタークリッパーは島の周りをゆっくりと回りながらセイルをあげていく。ゾディアックはずいぶんとサービス満点だった。最後にゾディアックとテンダーは本船に近づいた。白いセイラー服を着たスター



フォトテンダーのクライマックス

クリッパーの船員たちが10人ほどもバウスプリット前に近づいてきた。バウスプリットに整列するのであろう、と思ったらすぐに歩き始め、こわがる様子もなく、高いところをすたすた歩いていく。バウスプリットの中央あたりまで進んだところで全員手を振り始めた。これをクライマックスにフォト・テンダーは終了。昼食後、ジェームズボンド島とパンイー島を散策した。この日の夕食が本当に“最後の晩さん”になった。実は、I氏と筆者がランカウイ島で2度目のジャングル・トレッキングに参加する前の晩も“最後の晩さんだ”と冗談を言っていたのである。



奇観の“007 叻地”ジェームズボンド島

「新造船のライニング・クリッパーも間もなくデビューするので、こちらもよろしく！」と紹介があり、万雷の拍手となった。

8日目：1月19日（土）「神様」降臨！

快晴。ホン島～ブーケット島は54ノートイカルマイル（＝約100km）。



毎朝トピカバー前で行われた“エクササイズ”、“神様”はなかなか写らない

下船後、ホテルから空港は、当初タクシーを800バーツで予約したが、バンに代わ（え）ると同時にホテルが“営業”したため、1人300バーツの乗り合いになった。800バーツの売上が、2,100バーツになった。日本人テーブルから3名の他、4名が乗車。途中下車する英国人2人が私の隣に座ったが、とんでもなくスゴイ人だった。いつも朝の体操に来ていた髪の毛ぼさぼさ長髪の、ちょっとしょぼくれた感じのするおじさんとその連れ。大学教授か作家のような、自由な雰囲気と風貌にみえていたが、話す機会はなかった。いつも群れずにお2人だけで静かに時間を過ごしていた。連れの女性がいうには、男性は英国人ヨットマンでオリンピックの金メダルを2個（メキシコとミュンヘン）取った人だというのだ！そのあとモントリオールでも銀メダルを1個取った。いずれもライニング・ダッチマンで。更に、1983年のアメリカズカップの英国チームの共同スキッパーだったという正真正銘の伝説。「でも彼は、そういうこと（自慢話）は決して口にしないの」と女性は少し不満げだが、誇りのこもった口調で言った。“てんぷくトリオの南伸介”なら「びっくりしたなあもう！」と言っただろうか（こんな古いジョークは、日本人テーブルの年配層のみにしか通ぜず、若いHさんや草野さんからは理解不能のサインを送られるだろう）。「神様」とお連れの女性（写真家）は、1月末までタイに滞在するそうだ。お名前を教えてくださいましたが、そういうライフスタイルなので、ここでは触れない。

以下 次号につづく